

第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第3回実施分（令和6年8月15日開催） 自由記載欄

【傍聴者 対面2名・オンライン37名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

・本町コミセンの複合化計画

・公会堂の改修計画

・プロボノの取り組み

・イエローキャブの活用と限界

・2中と6中の統合計画

・都市計画に関する本策定委員会の書き込み可能な範囲について、法体系上の本調整計画の効力と、政策プロセスの手順に関して、市議会議長より意見がありました。市議会議長および他会派の議員と委員の方との質疑応答を、興味深く拝聴しました。

総じて、吉祥寺イーストエリアの不動産開発状況および市保有施設に関する課題は、本調整改革策定時には、敢えて触れずにおいた印象がございます。

今回の議論で、図らずも露呈したのは、現行の都市計画政策プログラムもまた、現在浮上しつつある課題に対応しきれていないという事実ではないでしょうか？

その点を踏まえての市長の提言であるならば、スピード感を持つての政策対応の必要性については、調整計画に追加記載されるべきと、感じました。

・最後の方しか傍聴できなかったのですが、関心のある分野の先生がオンラインだったので残念でした。あと雑音で聞き取りにくい所がありました。お盆休みの中、出席されている先生方、職員の方々は大変だったと思いますが、直接議員の方々が質問しているのを聞くことができて良かったです。

・就労を含めた高齢者の社会参加の支援に関わる議論に関心がある。就労に関わり、有償か無償か、雇用契約との関り等、議論を深めていただきたい。（背景の一つに一般雇用市場では対応してもらえない就労希望者がいること。また公共の仕事に就労したいとの希望者がいることなどがあります。）

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

・Zoom 配信は素晴らしい取り組みだが、今後外乱も考えられるので、参加資格の確認はやや厳格にすることを考えた方がよい気がします。

・与野党ともに、市長の提言を批判的に捉え、屋上屋を重ねるべきでないという意見が目立ちましたが、違和感を覚えました。

接戦だったとは言え、投票率も高く、市民の注目度も低くはなかった市長選挙を経て集約された直近の民意に、市議会としてどう向き合うのか、それこそが問われているように感じました。

策定委員会における市長の発言、そして市議会における質疑応答を通じて、新市長の取り組みの根底に、武蔵野市の計画行政の枠組みを遵守しつつ、市民に対するアカウンタビリティーを誠実に果たしていかなければならないという行政のリーダーとしての責任感があることは、明白となっています。

幸いなことに、今回の市議会議員との長時間にわたるやり取りによって、策定委員会の委員の皆様が、その点を深く認識されていることが、あらためて、良くわかりました。

けっして容易なタスクではありませんが、委員の皆様の変わらぬご尽力を、市民の1人としてお願いしたいと存じます。

・対面の方がオンラインよりも話の流れが分かりやすいな、と感じました。もちろん会場へ来ることが難しい方々への配慮は必要だと思いますが、できる限り対面での機会を設けていただけると嬉しいです。

・市の事務事業に関し、たて割りで分断するのではなく（主管が責任をもって対応することの意味は認識していますが。）事業により、横串をさし、有機的に、プロジェクトとして対応するのが有意義であることをいささかの経験から痛感しています。（無駄が多く、互いの情報交換、共有が進まず、深化せず、結果、予算の効率的執行が行われていないことを痛感している。何年たっても進展もない。）

（※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。）